

草津のサンヤレ踊り

Kusatsu's Sanyare Odori

5月3日に、草津市内の7つの地域で行われるサンヤレ踊り。囃子詞の中にある「サンヤレ」は、「幸あれ」という言葉が転じたとする一説があり、五穀豊穡・疫病退散の願いが込められていると伝わっています。この「草津のサンヤレ踊り」は、平成30(2018)年5月に日本遺産「琵琶湖とその水辺景観一祈りと暮らしの水遺産」の構成要素として、芦浦観音寺とともに認定され、令和2(2020)年3月には、国の重要無形民俗文化財に指定されました。さらに、令和4(2022)年11月には、全国41の「風流踊」の一つ「近江湖南のサンヤレ踊り」としてユネスコ無形文化遺産に登録されました。片岡、長束地域でサンヤレ踊りに携わるお二人に、サンヤレ踊りへの思いを語ってもらいました。

The Sanyare Odori festival is held on May 3 in seven different areas around Kusatsu City. The word "Sanyare" doesn't mean anything, but according to one theory, it's a corruption of the phrase "sachi are," which means "good luck" and is thought to have been used in the festival to express the wish for a bountiful harvest and the warding away of infectious diseases. In May 2018, Kusatsu's Sanyare Odori was recognized as a component of the Japan Heritage "Lake Biwa and its Surrounding Waters: The Water Heritage of Prayers and Lifestyle" along with the Ashiura-kannon-ji Temple. Further, in February 2020, it was designated as a National Important Intangible Folk Cultural Property. In November 2022, it was registered as a UNESCO Intangible Cultural Heritage under the 41 "Furyu-odori" dances of Japan as the "Sanyare Odori of Omi Konan."

サンヤレ踊りは地域で違いがある？

長束さん 7つの地域全て、囃子詞の中に「サンヤレ」の節があるのは一緒だけど、踊りのリズムは異なります。

片山さん 踊り方や衣装も違いますよね。

長束さん 長束地域の踊り子の衣装は、赤ちゃんの産着^{うぶぎ}*1を町内に寄付してもらって、それを衣装にしているんです。

片山さん 参加できる年齢も地域によって違います。僕が初めて参加した時は、小学3・4年生が太鼓打ち、5年生から中学生までがササラ^{かた}*2と鉦、高校生が笛と太鼓持ち、そして歌で構成されていました。現在は太鼓打ちが小学生のみに変わっていますが、小学3年生から24歳までさまざまなパートを担当するので、いろいろな年代が関わっています。

長束さん サンヤレ踊りは、踊り子、太鼓のほかに、笛や鉦、囃子方が必要で、小学生から高齢層まで幅広く参加し、盛り上げています。

*1 お宮参りで赤ちゃんに着せる華やかな着物
*2 すり合わせて音を出す竹製の楽器

小学生の頃の片山さん
(上段右から2番目 白い法被)



片岡地域 片山 大士^{かたやま たいし}さん

昭和58年生まれ。小学3年生で太鼓打ちとして参加し、現在まで片岡のサンヤレ踊りに関わっている。



長束地域 長束 廣司^{なつか ひろし}さん

昭和25年生まれ。小学校高学年で長束のサンヤレ踊りに初めて参加。草津のサンヤレ踊り保存協議会の会長を務めるなど、次世代への継承に取り組む。



次世代へつなぐ

片山さん 片岡の歌詞は記録に残しているのですが、踊りは人から人へ伝えていっています。5月3日の本番に向けて、3月下旬ごろから伝える側の僕らがまず練習。それから子どもたちに教えています。4月中旬にはどの子も形になってきます。

長束さん 今の子どもは塾やクラブで忙しいから、練習時間を割くことがなかなかできない。教える方も高齢化してきているし、太鼓も重たくて持てないから、段ボールを太鼓代わりに打って教えています。練習風景をビデオに撮ったらいいのではという声もあるのですが、太鼓のポンポンっていう拍子は映像だけ見ても分からないのです。



お二人にとってのサンヤレ踊りとは？

長束さん サンヤレ踊りを通してコミュニケーションの場が大切だということを伝えていきたい。親から子へ、孫へ。二代三代と、親子や孫との関係性を築いて継続するのも、サンヤレ踊りの大きな機会だと思っています。

片山さん ずっと上の世代から継承してきて、今は伝えていかないといけない立場になりました。昔のまま受け継ぎたいですね。

長束さん 何百年とよく続いてきたとも思っています。女子の参加など、少し形が変わってきていますが、脈々と受け継がれてきたものなので、何とかして次の世代にサンヤレ踊りをつないでいく努力をしないとイケない。

片山さん 365日の1日くらい、地域のみんなで祭りに参加して、地域を活性化できたらと思います。

長束さん 人間関係が希薄になって、地域でも、普段は交わりの少ない人が多くなってきました。神輿を担いで、子どもさんが踊って、ワイワイして、いろいろな世代とコミュニケーションを取れたらいいですね。「また来年も踊りたい」とつないでいけるようになればうれしいです。

伝統をつなぐ

7つの地域

矢倉

2年に1度行われ、子どもの衣装は華やかで、桃色基調の花笠をかぶり、大人は袴を着る。宵宮の世踊りが特徴的。(若宮八幡宮、立木神社他)



下笠

子どもたちは華やかな衣装に花笠をかぶり、眉間に朱をつける。大人は飛龍紋や波文様が入った衣装で踊る。(老杉神社他)



片岡

一行は、黒襟の付いた白い法被だが、太鼓打ちには友禅染の裂地を用いた法被を着る。(印岐志呂神社他)



長束

3年に1度行われ、太鼓打ちには、花笠に手甲、脚半、長着に三色(赤・青・黄)のたすきを掛ける。(印岐志呂神社他)



志那

一行は、白い法被に黒い帯を締めた衣装を着る。太鼓打ちの袖の裏には、粹で豪華な柄の生地が仕立てられている。(志那神社他)



吉田

白い法被を着て、太鼓打ちは、たすき掛けなどをする。踊りと歌の速度変化が特徴的で、「砂ずりの藤」との共演が見どころ。(三大神社他)



志那中

男性は黒襟の白色、女性は桃色の法被で、役によって赤や黄のたすき掛けの色が異なる。「所望、所望」という掛け声で、踊りが速くなる。(惣社神社他)

